



# 関西支部報

http://www.jackansai.com

## いよいよ関西支部設立80周年

重廣恒夫

### 2014年を振り返って

昨年は、いまだ記憶に新しい御嶽山の噴火をはじめ、白馬村を震源地とする地震など自然災害に登山者が大きく影響を受けた年でありました。

阪神間の登山愛好者にとって身近な六甲山も8月、10年ぶりに兵庫県に上陸した台風11号が大きな爪痕を残しています。8月8日から10日にかけて48時間の降水量は、神戸市中央区で観測史上最大の268mmを記録。同じ時間、六甲山裏の北区有馬町では526mmと市街地の倍近い雨が降ったことにより、幹線道路はもとより紅葉谷道(本年1月8日にも有馬ロープウェイ有馬温泉駅近くで崩落)やアイスロードなどが現在でも通行止めとなっています。8月20日、死者74人という日本で過去30年間の土砂災害による人的被害では最多となった広島安佐の大規模な土石流でクローズアップされた「まさ土」は花崗岩が風化したものですが、六甲山もこの「まさ土」に覆われており、20年前の「阪神・淡路大震災」の被害に追い打ちをかけ、五助谷や水晶谷などの谷筋も不安定な状況になっています。

関西支部県境縦走は3月に日本海側久美浜を出発して

順調に縦走をおこなっています。8月下旬の福知山市北東方の三国山(557m)～鉄鉦山(775m)への縦走では、豪雨の爪痕を目の当たりにし、さらに豪雨に遭遇することになりました。23日、三ノ宮駅バスターミナルを出発した高速バスが福知山駅に近づくと、道路の両脇に濡れた土や使用不能になった電化製品がうずたかく積み、また店舗の壁には冠水の跡が残り、被害の大きさに心が痛みました。24日、小坂峠から天谷峠を越えて鉄鉦山に向かっていたのですが、朝からの小雨模様が昼過ぎに急変して大雨となりました。下山することもままならないので予定通りの行程を進みましたが、その背に遠く福知山市防災センターからの「避難準備情報」発表を聞くことができましたので、鉄鉦山には向かわず県境を離脱して但東越に向かい事なきを得ました。

一方、昨年3月28日に「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律案」を衆議院に提出。同法案は4月25日の衆議院本会議において賛成多数で可決され、5月23日の参議院本会議でも賛成多数で可決され成立しました。2016年8月11日からは国民の祝日としての「山の日」となった喜ばしい年でもありました。1年の締めくくり

### 目次

いよいよ関西支部設立80周年	重廣恒夫	1
平成27年度新年会報告	中川委紀子	2
欠席者の便りから	茂木完治	3
著者と語る会報告	金井健二	4
関西支部と私	平井一正	5
私のとっておきの山行	黒部別山・大夕	6
テガビン	清瀬祐司	6
支部山行報告		
関西支部県境縦走20	立野里織	7
4000山グランプリ	水谷透	8
関西支部県境縦走22	松仲史朗	8
ゆるやか山行「里山探訪」	歴史と文化	8
を訪ねる17	内田昌子	9
関西支部県境縦走23	新本政子	10
4000山グランプリ	立野里織	10
ゆるやか山行「里山探訪」	歴史と文化	10
を訪ねる18	新井浩	11
関西支部県境縦走24	久保和恵	12
陽だまり山行	魚津清和	12
4000山グランプリ	野村珠生	13
レスキュー講座	山内幸子	14
「本山寺山森林づくりの会」作業報告	秦康夫	15
「第18回」森の勉強会参加報告	須本淳史	16
自然保護全国集会報告	斧田一陽	17
スケッチ同好会例会の報告とご案内	宮川流太郎	17
第25回記念藤木祭報告	宮川流太郎	17
自己紹介	阪下幸一	18
中村久住	中村久住	19
会務報告		
第4回委員会議事録		19
第5回委員会議事録		20
第6回委員会議事録		20
平成27年度 関西支部総会のご案内		19
新入会員		21
ルーム日録		21
受贈一覧		21
支部山行計画	15年4月～6月	22
自然保護行事	15年4月～6月	23
編集後記		24

である12月6日の晩餐会は新宿の京王プラザホテルで開催されました。皇太子殿下をはじめ510名の参加があり盛会でした。冒頭に発表された新永年会員は49名、関西支部は6名で4名が出席されました。しかし、訃報も多く、支部におきましても村井葵さん、大西保さん、吉永定雄さんなど6名の方々が亡くなられました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

支部の活動では、「4000山グランプリ」、「ゆるやか山行」、「五支部合同スキー」、「沢登り例会」、「セルフレスキュー講習会」、「大阪山の日に関連したイベント」を事故もなく行うことができました。「関西支部設立80周年」の記念事業の一つとして一昨年、1月瀬戸内海真尾鼻から開始した「関西支部県境縦走」は昨年2月に日本海に面した汐吹岬に到達、3月久美浜を出発して、今年1月末には丹波篠山の北にある鹿倉山を通過し2月末に「干支の山」櫃ヶ岳に到達する予定です。

自然保護関連では、東お多福山ススキ草原復元、自然観察会、本山寺山森林づくりの会の活動、愛知県猿投の森でおこなわれた第18回森の勉強会、広島で開催された自然保護全国集会に参加し、広範な活動を継続することができました。

### 80周年記念式典

日本山岳会創立110周年につきましては、多様な企画が進行中です。登山事業については、学生部ヒマラヤ登山・支部海外登山・学術調査登山・極限探究登山・三百名山ツアー・グレートヒマラヤトレッキング・ブータントレッキングなどが既に実施、これからの実施を予定されています。出版事業については、『新日本山岳誌改訂版』、中村保さんの『地図帳－ヒマラヤの東』、東海支部の『インドヒマラヤ山名辞典』などの発行が予定されています。記念シンポジウムも「2015年名古屋夏山フェスタ」「2015年松本山岳フォーラム」などを開催予定です。

記念式典は、例年の晩餐会時に同じ会場で執り行われることになっています。

さて、関西支部設立80周年ですが、昨年12月の支部報No.158で告知し、別途「80周年記念式典のご案内」と「80周年記念事業募金のお願い」を郵送させていただいております。今回の記念式典会場は、会員の皆様方の足の便を考え三ノ宮駅や新神戸駅から至近距離にある神戸北野の六甲荘とさせていただきます。記念フォーラムでは、兵庫県が生んだ偉大な登山家「加藤文太郎」と「植村直己」にスポットを当て、新たな視点から両人の生きざまに迫ります。

記念山行については、日本の近代登山が明治初期に神戸の地を踏み六甲山に登った外国人の影響を強く受けた藤木九三（藤木高嶺さんが新生『岳人』誌に「アルピニスト藤木九三の足跡」を連載中）さんのロッククライミングクラブ（RCC）誕生の地、芦屋ロックガーデンを高座の滝前のレリーフ経由で六甲最高峰に至るコースと、関西支部を始め9団体が協同して進めている「東お多福山」保全活動の場所を経由して六甲最高峰に至るコース、神戸北野異人館散策など3つのコースを準備し、最後は参加者全員が有馬温泉に集う予定にしています。いずれにしても関西支部が設立されて80年の今回の式典は、高校山岳・大学山岳部・社会人山岳会を経て日本山岳会（関西支部）に参画された方々の、「最初で最後の邂逅の場」になるのではないかと思います。

80周年記念事業の費用概算は、式典やフォーラム・記念山行などで200万円、『80周年記念誌』や『近畿分水嶺踏査報告書』などの出版事業で300万円、「80周年海外登山」1600万円など総額2000万円を上回る事業計画になります。支部員の皆様におかれましては、記念式典へのご出席はもとより、予定事業を完遂するための援助を重ねてお願い申し上げます。

## 平成27年度 新年会報告

中川委紀子

日本山岳会関西支部新年会が1月28日（水）午後6時半から大阪梅田「大東洋」を会場におこなわれ、47名が集い和やかに新春を祝った。村田さんの手際よい司会にのって会は進行された。

開会にあたり重廣支部長から年頭のご挨拶をいただいた。まず、昨12月6日に東京新宿京王プラザホテルに皇太子殿下をお迎えしておこなわれた年次晩餐会の報告があり、当日は新たに制定された「山の日」の祝宴でもあったとのこと。関西支部については1935（昭和10年）年9

月1日に設立、来年度設立80周年を迎えるにあたり、記念行事を昨年開始し、記念事業とその進行状況について述べられた（詳細は支部報158号参照）。また「関西支部県境踏査」は日本海への到達から南下に転じ篠山市北辺付近に到達したとの報告があり、会員の継続的で熱心な参加をすすめられた。次いで、大阪府山岳連盟会長でもある監事の中村さんの音頭で乾杯。会場は一挙に祝宴を開始。

途中でアルパインツアーサービス社の大島氏（会員外）

から海外トレッキングの紹介を兼ねた挨拶を受けた後、新たに入会した二名が紹介された。和やかな懇談が続く8時過ぎに司会者が中締めとして六本締めを行い、会員各人は山仲間との温かい交流と山行計画を胸に盛会のうちに散会した。

### 【参加者】

秋枝秀實 新井 浩 新本政子 井関正裕 岩崎しのぶ  
 魚津清和 浦上芳啓 大島義広 大津陸郎 斧田一陽  
 角崎秀哲 金井健二 金井良碩 清瀬祐司 釘本武昌  
 久保和恵 桑田 結 小島一喜 小寺佳美 阪下幸一  
 鹿田 勝 重廣恒夫 城 隆嗣 高木 稔 竹中雅幸  
 辻 和雄 永井 和 中川委紀子 中谷絹子 中村久住  
 西尾俊子 野口恒雄 野村珠生 橋本圭之輔 平林克敏  
 廣田猛夫 松仲史朗 松村文子 三木晃一 水谷 透  
 宗實慶子 宗實二郎 村田かおり 茂木完治 安井康夫  
 山内幸子 若林朋世 計47名

## 欠席者のたよりから

今冬の北濃は大雪。白山ビュー(我家)は2メートルの積雪に囲まれています。2015年は神戸大学山岳部創部100周年で、チベット未踏峰登山を計画、準備を進めています。 **井上達男**

最近のはめっきりと体力が劣り困っています。一昨年から徳島大学山岳部OB会で学士山岳会を作り楽しんでいます。 **大島秀夫**

来年日本山岳会関西支部設立80周年を知りました。記念式典を楽しみにしております。 **小林 貢**

日によって体調不良の日があります。そのため一応欠席とします。年齢(89歳)によるものでしょう。盛會を祈っております。 **住吉仙也**

昨年一年間東お多福山スキ草原復元活動に参加致し、ネザサ刈りだけではなく多くの事を学び、経験させていただきました。今年も引き続き参加致したいと思っています。関西支部80周年の今年が良き年となります様、お祈り申し上げます。 **田島聖子**

御無沙汰しております。職務からは未だ解放させてくれません。半人前ながら精励(?)しております。御盛會

を祈ります。 **塚崎義人**

この10月、グリンデルワルト周辺のトレッキングをしていて転倒、肋骨を折る始末。年齢の程を思い知らされました。以後、杖が必需品となってしまいましたが、それでも山を見る旅には出かけるつもりです。 **野村哲也**

後期高齢者となりましたので、現在は歩くことを主にしています。昨年1月より東海道を歩いています。12月現在桑名宿まで来ました。東下りですので江戸日本橋まで頑張ろうと思っています。 **羽田英彦**

体力が衰え山行も少なくなってきました。主に里の古道をカメラを持って歩いています。 **早津忠保**

設立80周年の歴史を有しながら活発な活動に敬意を表します。新年会は所用で欠席しますが、5月の記念式典と祝賀会には参加させていただくべく今から楽しみにしています。素晴らしい企画と成果を期待しています。 **平野征人**

昨年は腰痛等もあって山岳会の活動に殆ど参加できなかった一年でした。幸い年末から近郊の山登りが出来るようになり今年には可能な限り参加するようと思っています。さて、恒例の新年会ですが、丁度職場の機械の定期検査と重なり平日のことでもあり一寸休めない状態で不参加とさせていただきます。どうぞ皆様、本年もよろしく願い申し上げます。 **前田正彰**

本年85歳、平道でも4メートル歩くと2回は休まないといけません。なさけない。 **三木 亮**

9月末にはヒマラヤの先輩吉永さんと、後輩の大西君が亡くなり、その追悼文を書く立場になり悲しい思いをしています。1月は大阪へ行く機会がありませんので新年会は欠席といたします。ご盛會をお祈りします。 **水谷弘治**

当日、都合が悪く欠席させていただきます。今年の県境縦走はなるべく参加できるようにと思っております。 **山本義博**

2016年ナンガマリ遠征に向けて徐々にトレーニングを進めております。 **渡辺 豊**











ンテを交ぜ正面壁頭6時半到達。B隊はA隊登攀サポート目的で隣接のスラブ状ルンゼ右リッジ登攀で初期目的は終えたつもりだったが、正面岩壁取り付けは中央部だけが核心部の左方登攀が心の片隅に残っていた。

69年、気鋭のクライマーと南東壁中央ルンゼ登攀、正面中央ルート登攀を若者にバトンタッチした。長期入山可能者が4人揃った1970年8月、入下山含め25日間（大

半は岩壁の中）で、一気呵成で完登した。サポートも毎週神戸から食料ほか差し入れ参加、クラブ挙げての会心の登攀と思っている（この登攀は色んな形で紙面に掲載）。そして現在トロリーバス開通後半世紀、冬季を除けば歩く事無くダムからの絶景が望まれる。皆様のお越しをお待ちしています。

# 支部山行報告

支部山行14-15関西支部県境縦走20  
三国山～登尾峠～西谷

立野里織

## 8月23日(土)曇

17日の豪雨の影響でJR福知山線が一部不通となったため、バスで福知山入りした。広範囲に冠水した跡が残る。福知山駅よりタクシーで西石集落へ。11時9分県境復帰点に到着。さわやかな風が吹く中で昼食をとる。ゆるやかな登りを行う途中、かわいらしい鳴き声とともに鹿が走り去る。鹿のような細くて軽やかな足が欲しくなる。三国山(575.7m)に到着。途中の三国山四等三角点(557m)は敷き詰められた枯葉で見逃しそうになる。曇天ではあるが時々晴れ間が顔を出し、汗だくになりながら、登尾峠へ。古い石垣と樹木に囲まれた日陰の中で小休憩。ここからはマイクロウエーブのある登尾峠二等三角点(633.2m)まで急な登りが続く。アップダウンを繰り返しながら丹波直見峠(660.7m)四等三角点金属標に到着。沢の音が近くに聞こえる小坂峠手前標高575mの地点をテントサイトとした。

## 8月24日(日)曇のち雨

3時半起床。生い茂るシダと倒木の間をかきわけるように急こう配の下りを経て、京都府道に面した小坂峠にたどり着く。府道の道路脇に立つお地藏さんに無事をお祈りする。道路側溝に流れ込む冷水でのどの渴きを潤したのち、切通しの右手から急登する。大汗をかきながら主稜線に合流、展望が開けるが雲が多い。北西にはこれから向かうP750が聳える。小休止しP750を登り切り天谷峠へ下り休息をとる。暑さはそれほど感じられないが、湿度が高く、ついに小雨が降り始める。雨具を着け標高差400mを再び登る。しだいに雨は本降りとなり、顔に滴り落ちる水滴が汗なのか雨なのかかわからない。立ち止まると東には通ってきたP750をはじめとする標高700m



無事をお祈りしたお地藏さん 写真提供…重廣恒夫

の稜線が雨の中ほんやりとみえる。西谷三等三角点(718.1m)の手前で県境を離脱する。背中に福知山防災センターの大雨による避難準備情報放送を聞くが、但東越には和田山駅からのタクシーが到着してほっとした。

## 【コースタイム】

23日 西石集落10:40—県境復帰点11:54—12:13三国山—12:57登尾峠—13:46マイクロウエーブ—14:37P 6 6 3 15:53—17:53P 6 6 1—18:13テントサイト

24日 テントサイト05:06—05:50小坂峠—09:36P 5 5 1—10:22天谷峠11:00—12:21P 5 3 6—13:55県境離脱点—14:00西谷—14:29鉄鉆山登山口

## 【参加者】

重廣恒夫 新本政子 久保和恵 黒田記代 村田かおり (会友)青木昭 (会員外)立野里織 計7名



支部山行14-20 4000山グランプリ  
日永岳・舟伏山

水谷 透

10月4日(土)晴

“奥美濃”なんと懐かしい響きだろう。二十歳のころから30代後半にかけて“奥越”と共に足蹴く通った山域である。季節を変え、ルートを変え、毎月通っていた。そんな中であって日永岳は登り残している山の一つだった。

仲越の小学校跡で支部長一行と合流し、ガツパ谷の林道へ。中の水谷への林道入り口にはゲートがある。更に進むと林道は分岐し、日永岳への林道にはチェーンが掛かっている。チェーン越えて進む。沢筋から高く離れた林道が再び沢に近づくころ、林道の終点になる。

沢を渡ったところに日永岳登山口の標識があった。すぐにスチール製の階段が現れ、小さな尾根上の急登が続く。傾斜が緩やかになったと思うと笹や灌木が覆いかぶさり、歩きにくいトラバース道が稜線の鞍部目指して続いている。鞍部からも歩きにくい稜線で、ときおり梯子も出てくる。この道、中部電力の巡視路なのだが、本当に巡視に回っているのかと思える。その巡視対象の反射板の脇を通り、頂上に着く。

頂上は背丈ほどの灌木に囲まれていて、背伸びをすると僅かに周囲の山々を望むことができる。三角点の上に立ってみると、東にはちょうど一週間前に噴火した御嶽山が噴煙をたなびかせている。下山は往路を戻り、仲越へ。車で2往復して、翌日の舟伏山の登山口となる「あいの森」へ移動。雨が降りそうなので一旦は張ったテン

トを撤収し、山の家の廊下で寝ることにした。

10月5日(日)雨

案の定夜中に雨が降り始め、雨具を付けての出発となる。東ルートの桜峠経由の登山道は、あいの森と桜峠の間が伐採作業のため通行禁止になっている。今日の伐採作業は休みのようだが、林道には重機が置いてある。桜峠への道がある斜面は尾根まで一面伐採されていて道の痕も分からない。林道終点から沢沿いに遡り、沢の二股から間の小尾根に取り付く。急登ではあるが下生えがないので比較的歩き易い。ただ足元にはヤマビルがたくさん蠢いている。登山道に飛び出したところは、桜峠とみのわ平の間であった。ここからは登山道を辿り舟伏山に着く。

展望のきく広い頂上なのだが、あいにくの天気で展望は全く得られない。昼食をとり、記念写真を撮って西ルートを下る。以前登った時にはなかった道である。小舟伏山を過ぎると急な下りとなり、展望台をすぎると阿弥陀仏が安置されている。さらに下り、右手からの沢に出合うとすぐ「あいの森」へと戻って来た。

山の家の水道で足元の泥を落としていると、スパッツに数匹のヤマビルが取り付いていた。他の人も同じだ。温泉に入って分かったが、二人は血を吸われていた。私は無事だったが、帰宅後登山靴を洗っている時に、潜んでいたヤマビルに血を吸われてしまった。

【コースタイム】

4日 仲越10:10—11:05林道終点—11:40鞍部—12:50日永岳13:30—14:30鞍部—14:53林道終点—15:45仲越

5日 あいの森06:11—06:51二股中間尾根—07:28中間尾根上部07:40—07:53登山道—08:10みのわ平—08:40水たまり—8:52舟伏山9:30—10:18阿弥陀仏—10:40沢出合—11:00あいの森

【参加者】

重廣恒夫 野村珠生 松仲史朗 村田かおり 水谷透  
(会員外)立野里織 計6名

支部山行14-22 関西支部県境縦走22  
千原峠～烏帽子山～塩久峠～穴裏峠

松仲史朗

10月25日(土)晴

青垣町遠阪より北方の県境にある千原峠を目指す。千原峠は稜線下の岩をくり抜いた7～8mの背を屈めなければ通過できない手掘りの隧道で、夜久野町千原へと続く。峠の右手を登り県境復帰。快適な稜線を東に辿る。



舟伏山への登り  
写真提供…重廣恒夫



P355付近にはミツマタの小群生地があった。P513周辺は一部伐採されていた。稜線の京都府側は手入れされた植林地、兵庫県側は紅葉の木々散見される自然林で、明るく広い尾根道が続く。P477を過ぎ東経135度の子午線が通る分水嶺を辿り、途中、ヤマドリに出会い烏帽子岳に着く。山頂には四隅が欠けて丸くなった三角点があり、北方の京都府側は展望が開け、城址の記念歌碑が建っている。頂上から東進した稜線南面で取水し、宿泊予定地の梨木峠まで1kmを歩いた。峠から少し登った平坦地でテントを張った。



哀れな烏帽子山の三角点 写真提供：野村珠生

#### 10月26日(日)晴

好天に恵まれ、P339を過ぎたところで朝日が東の空に昇り、天使の架け橋(光芒)が見られた。P390まで進むと南方の氷上盆地には雲海が広がっていた。尾根は南から東へ向きを変え、太陽を正面に受けた明るい稜線を辿り榎峠に到着。尾根歩きの楽しさを堪能しながら辿り着いた塩久峠は、静かな鞍部である。P421付近は倒木が多い。蓮根峠には植林記念の石碑「大正記念林」があった。P399手前の送電線は鉄塔ごと撤去され台地になっていた。稜線を南進すると穴裏峠の標識があった。隧道が貫通するまではここを通過したのだろうか。縦走終了予定の穴裏峠に到着後、京都府側の急斜面を下りトンネル入口に降り立った。

#### 【コースタイム】

25日 遠阪11:00—県境復帰点11:47—13:09 P 5 1 3 13:19  
—烏帽子山15:11—16:48 梨木峠

26日 梨木峠06:10—榎峠07:50—塩久峠09:27—蓮根峠  
11:29—P 3 9 14:15—穴裏峠14:31—14:47 トンネル入口

#### 【参加者】

黒田記代 野村珠生 松仲史朗 村田かおり (会友)青木昭  
計5名

### 支部山行14-24 ゆるやか山行 「里山探訪」歴史と文化を訪ねる17 生駒山系 交野山～国見山

内田昌子

#### 11月20日(木)晴

交野市の東部、寺地区の外れにある住吉神社から、河内と大和を結ぶ「かいがけ(狭崖)」の道に入る。右手に巨岩を見ながら、落ち葉の道を登る。古くから多くの人々が往来しただけあって、道のそばに遥拝所を示す石柱や地藏等の石像類が多く点在する。登ること30分余りで目の前が開け傍示の集落に出る。此処は落人の里らしく人家は4軒のみでひっそりしている。重文の仏像があるという八葉蓮華寺へ立ち寄る。中には快慶作の檜造りの阿弥陀如来立像があるらしいが開扉は春と秋の2回だという。菅神社の鳥居前で奈良に越える道と分かれ、小さな棚田の間を通り野外センターで休憩。12時前、府道34号線を渡った駐車場で秋色の木立を眺めながらお弁当を開く。ここからは40m前後の上り下りを繰り返す、岩倉開元寺跡を経て交野山(341m)へ。山頂には巨岩が多い。その中で最も大きくて広い観音岩に立ち、北は比叡山から南は「あべのハルカス」までの広大な景観を楽しむ。これらの巨岩は地中深くで固まったマグマが悠久の時を経て地表に現れたもので、古代においては磐座信仰の対象であったが、今では絶好のビューポイントとして多くの人に親しまれている。下山時に大岩に刻まれた梵字を確認して白幡池へ。渡り鳥飛来の季節でもありオシドリを期待したが肉眼では確認できなかった。静かな池を素通りして津田城があったという国見山へ向かう。土塁の尾根の先が国見山(284m)の山頂。小さな展望台だが観音岩同様の眺望がある。津田城跡は判然としないが、この付近一帯は津田氏一族の興亡の舞台であったようだ。



360度の展望・交野山山頂 写真提供：中島 隆

この後、檜林の谷より尾根にある「夫婦岩」を見上げる。これもまた巨岩であった。森を抜けると新興都市の一角に出る。やわらかい秋の日差しを受けて津田駅へ。

#### 【コースタイム】

河内森駅09:49—10:17住吉神社—10:59かいがけ地蔵—11:31野外活動センター—11:52交野山登山口駐車場（昼食）12:24—12:46交野山—13:49国見山—14:53JR津田駅

#### 【参加者】

久保和恵 新井浩 新本政子 上田典子 魚津清和 内田昌子 浦上芳啓 薦田佳一 戸島泰三郎 中島隆 野村哲夫 平井一正 松波幹夫 水谷透 宗實慶子（会友）小林三喜男 中田栄 中野峯子 横山規江（会員外）新井幹子 計20名

#### 支部山行14-25 関西支部県境縦走23

#### 穴裏トンネル入り口～親不知～石原集落

新本政子

#### 11月22日（土）晴

気温高くすぐに汗ばむほどの陽気である。黒石山（△曼田良）にて昼食。松茸山入山禁止の立札に出会うも入山禁止期間が過ぎていて無事通過。黄葉を楽しみながら難なく予定のテント場P447に到着。少々早すぎるので小休止の後に取水地を探しながら進むこととなる。一頑張りして△親不知を越え、大杉ダム遊歩道分岐からドンと下った親不知登り口の標識のある365m地点が今夜のテントサイトとなる。支部長と立野さんが120mも下って苦労の上取水してくれたお陰で、夕食を楽しみ談笑就寝。

#### 11月23日（日）晴

足元に注意しながら神奈備山（権現山）へと出発。夜明けと共に雲海に浮かぶ山々の景色が素敵だ。幾度も立ち



親不知 写真提供：重廣恒夫

止まっては感嘆の声を上げた。急坂を荒木分岐へと下り冷え冷えと気持ちよい霧の中を塩津峠へと辿る。四等△塩津峠は倒木に隠れ見過ごしそうであった。支部長が木立を鋸で刈り払い周辺整備。△岩間より竹田川へと下り、石原集落にて県境離脱となる。紅葉を楽しみ落ち葉を踏みしめ晩秋の縦走を存分に楽しんだ。

#### 【コースタイム】

22日 穴裏トンネル入り口10:42—13:14曼田良—14:51 P 4 4 7—親不知15:53—16:52テントサイト

23日 テントサイト05:22—06:05神奈備山—08:16下竹田—10:46塩津峠—11:51岩間—13:54石原集落県境離脱

#### 【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 久保和恵 松仲史朗 村田かおり 新本政子（会員外）立野里織 計7名

#### 支部山行14-26 4000山グランプリ

#### 経ヶ岳(764.9m)、仙尾山(826m)、 剣ヶ岳(799.5m)、吉野ヶ岳(547.0m)

立野里織

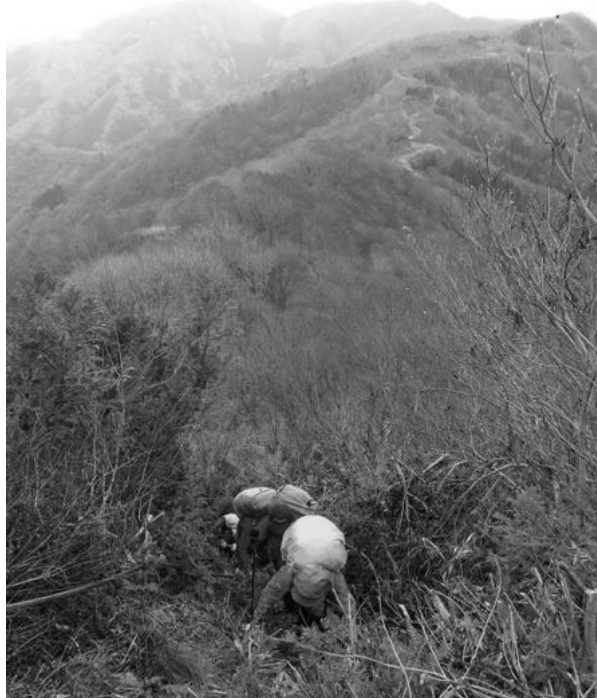
#### 11月29日（土）雨

福井駅出発時は大雨。えちぜん鉄道勝山永平寺線に乗りし保田駅へ。冷たい小雨になっていた。保田駅を出発して、林道を通り抜け、登山道に入る。鉄塔No153に到着し小休憩。あたりは霧がかかり景色は何も見えない。粘土状になってぬかるむ土と、雨に濡れて滑りやすい小石の上に落ち葉が積もって歩き難い。鹿の蹄が滑った跡もあちこちにあり、慎重に経ヶ岳山頂へ向かう。鉄塔No154を通過して経ヶ岳に到着。頂上からは急な鉄塔巡視路を慎重に下り、鉄塔No155の手前で巡視路から離脱し北西俣集落へ。北西俣集落からはタクシーで仙尾山登山口（655.8m）へ移動。小休憩したのち仙尾山に登る。仙尾山山頂も霧がかかっており、幻想的なブナの林の間を北へ下り林道に出た。40分ほど林道を歩き剣ヶ岳登山口へ。思いのほか深い藪をかきわけながら30分ほどで剣ヶ岳山頂に到着した。山頂も藪のため景色は見えない。急傾斜の下りも藪漕ぎで、30分ほどで大仏林道に出た。ヘッドランプを点けて、水場を求めて林道をひたすら歩く。いくつかのカーブを曲がってようやく林道の側溝に流れ込む雨水を見つけ、テントを設営した。夜は支部長の焼く「くさや」の強烈な臭いに騒然となった。

#### 11月30日（日）晴

起床して空を見上げると、北斗七星やオリオン座など満天の星空であった。時折、樹間から見える雲海に感嘆





仙尾山山頂へ向かう  
写真提供…重廣恒夫

の声をあげ、林道を約6km歩いて吉野ヶ岳の鉄塔巡視路入口に到着した。途中、樹齢100年ほどのブナの大木を横目に、色鮮やかな落ち葉の絨毯の上を進む。鉄塔を通過してからは巡視路を外れ、20分ほどの藪漕ぎで泰澄大師によって開山されたという「越前五岳」のひとつ吉野ヶ岳山頂に到着した。小休憩したのち登山道を下り、蔵王大権現の社殿を見て、緑がまぶしい竹林を抜け登山口である神明社鳥居へ到着した。松岡町の集落を通過する途中、ネギや大根畑の隅に「上吉野四等三角点(86.6m)」を発見。総合運動場で濡れ物を乾かしたのち、タクシーで福井駅へ向かった。

**【コースタイム】**

29日 福井駅06:34(えちぜん鉄道) 保田駅07:41—09:24鉄塔No.153—10:18経ヶ岳—11:12巡視路分岐—12:24北西俣集落(タクシー) 仙尾山登山口13:33—仙尾山14:20—15:33 剣ヶ岳登山口—15:59剣ヶ岳—16:29大仏林道合流点—17:34テントサイト

30日 テントサイト05:53—08:47吉野ヶ岳—10:07蔵王大権現鳥居—11:22総合運動場

**【参加者】**

重廣恒夫 野村珠生 村田かおり 松仲史朗 (会員外)  
立野里織 計5名



支部山行14-27 ゆるやか山行  
【里山探訪】歴史と文化を訪ねる18  
彦根 佐和山城址

新井 浩

12月18日(木)

日本海側の大雪情報があり、雪の事故が報道される中、決行との連絡が入る。

彦根が近づくと従い天気は崩れてきて、歩き始めたときは、完全に裏日本的暗いムードであった。目的の佐和山は、東海道と新幹線に挟まれた小高い山で、全山木立に覆われ、標高232mの山頂がわずかに整備されているのみで、かつては壮大な山城であった由。

ルートは佐和山の西麓を北上し、北側へ廻り込んで尾根に上がり、尾根を南に向かって本丸へと進むのであった。天気は悪化してきて、雪の降りも激しくなる。道中では、お寺が連立して、雪の白さと相まって清々しい。いずれも井伊家の加護厚き寺々であった。仙琳寺、清涼寺、竜潭寺を覗いて歩き、お腹の空いたころ、大洞弁財天に着く。きつい階段を登り、鳥居・楼門をくぐると、権現造りの弁天堂で、その横に屋根のある休憩所があった。次々と雪姿が到着し、やれやれと白い上着をとる。テーブル・いすがあり、ほどよく座って昼食となった。

午後は、松波さんの先導で、弁天堂の裏側から登りはじめる。積雪は、10~15cmくらいで登りやすく、幸い風も無く、ゆったりペースで、まことによろしい。竹笹が雪の重みで道を塞いで、都度雪を払ったり、落としたりして進む。雑木林で、景色はない。前の人の足跡を追うのみであった。やや下る斜面に降り立つと、「切り通し」で、ここで小休止となる。



雪の佐和山城址に行く 写真提供：浦上芳啓

登りを再開するに従い、雪は止み空も少しく明るくなって来た。木の間越しに琵琶湖の灰色の水面が見えたり、下の街並みが見えたりした。もう少しと南進すると、青

空がチラチラと見えはじめ、時々日が射すではないか。煙硝櫓の小広場をすぎて、まもなく本丸址の広場に到着する。東側に「佐和山城址碑」を見つける。晴れた山頂で記念撮影。まわりを見渡し、最高の気分となる。あとは下るのみ。ややきつくて、滑ってしまうことがあった。ここが本来の大手門からの登城ルートだということ。なんと気持ちのよい下山道だったことか。降り立ったのは、国道8号線で、お天気もここで終わりであった。

京都駅で下車し、忘年会に向かう。最長老の大塚さんのご挨拶は、「今年度締めくくりの山行が、かくも楽しい初の雪山歩きとなり、感激しております。どうか元気に今後も、是非ご一緒させて下さい」と、一同も賛同の拍手をいたしました。

#### 【コースタイム】

JR彦根駅10:38—10:47国道518号線高架下—11:18仙林寺—12:03龍潭寺—12:11大洞弁財天(昼食)12:44—13:48佐和山城本丸跡—14:25国道8号線登山口—14:54 JR彦根駅

#### 【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 井関正裕 上田典子 魚津清和 浦上芳啓 大塚宏圀 大塚和子 金井健二 清瀬祐司 野村哲夫 橋本圭之輔 秦康夫 平井一正 松上美代子 松波幹夫 宗實慶子 森沢義信 (会友)秋月修次 浅田博三 岐部明弘 小林三喜男 田中アキエ 中田栄 蓮川博凡 横山規江 (会員外)新井幹子

計28名

#### 支部山行14-28 関西支部県境縦走24 石原～三春峠

久保和恵

#### 12月20日(土)雨

今日は雨天。石原公民館から雨具着用のスタート。目の前の農道を僅かで復帰点に出た。廃田の中をフェンスに沿って南へ1kmほどで稜線に取りつく。ヒノキの植林が続き林床はお決まりの有様で味気ない。NHKの電波受信施設のある高谷山はピストン、残雪に足跡を残しデポ地に戻る。歩き易い緩やかなアップダウンを繰り返し、丹波第二トンネル上にある岩妻峠に出た。人知れず岩陰にお地藏様が安置されていた。この少し先でテントを張る。取水のご苦労に感謝しつつテント内での夕食。

#### 12月21日(日)曇後晴

5時30分、ヘッドランプ頼りに歩を進める。黎明、雲海と朝焼けに感動。陽が差し込むアカマツの多い稜線は明るい。P342辺りは多くのTVアンテナが放置され



丹波冬場の絶景「雲海」 写真提供：重廣恒夫

ていた。小笹峠では進路を川に阻まれたが、京都側の小笹橋を渡り天田健康の郷より支配人の好意でネット内に入り復帰。四等△西松、寒谷と歩を進め、途中「MIHARU」とある共同受信設備を目にし、離脱予定の神池峠に降りた。時間に余裕がありさらに前進。P429を越えると広々した尾根上歩きが続き、点名田野谷、三井庄峠、そして三和町、春日町を結ぶ県道の三春峠まで足を伸ばした。

#### 【コースタイム】

20日 県境復帰点10:11—12:27高谷山分岐—13:18高谷山—14:28上牧—14:38テントサイト

21日 テントサイト05:30—08:41小笹峠—10:16西松—11:43寒谷—12:44神池分岐—15:09田野谷—15:38三春峠

#### 【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 新本政子 久保和恵 松仲史朗 村田かおり (会員外)立野里織 計7名

#### 支部山行14-29 陽だまり山行 三重山(みかさやま)203m

魚津清和

#### 1月10日(土)晴

JR有年駅に集合。参加者が揃ったところで案内役を務める須磨岡氏からコース概要の説明を聞き、準備が整ったところで登山口まで車道に沿って500m程南下する。途中、道路沿いにある山王神社に立ち寄る。小休止後、登山口の赤穂ふれあいの森ゲート近くにある大きな案内板の前で山内氏から施設説明があった後、ゲートより西に車道を少し入った所の取り付きから荒れた急な南西斜面の谷筋を登り始める。山道合流点からは、右に北から西に三重山を囲むように巻きながら山頂を目指すが無ルした土肌と大小の小石を枯葉が覆い歩きづらく標高差200mも満たない割に手強く注意深く歩を進める。三



重山山頂には、三階建ての昔の砦を模したような大きな展望台があり最上階からの展望は素晴らしく、すぐ西側には南北に流れる千種川、北側には山陽本線が東から千種川沿いに北へ延び、山陽本線の南側には旧西国街道と東西、南北の様子が眼下に見渡せ当時、山城の要衝の地であったようだ。

また山陽本線の北側、矢野川流域に渡来人の遺跡等があるとの事から当地周辺の文化に深く関わっていたらう事が推測される。一方、展望台傍の案内板に「播州赤穂郡志によれば小田弾正(赤松一族)が初めて住んだ」と書かれてあったが築城者かどうかは不明。記念撮影後は、南に緩やかな尾根を辿りながら駿行寺に向かう。駿行寺は奈良時代に行基が建立した古刹。境内を散策後、隣接する薬師山荘で有志の方々からお酒・ワイン類、御節料理、おでん、焼き鳥その他色々な食材が持ち込まれ新春に相応しい盛大な酒盛りが行われた。帰路は参道を通って下山しJR有年駅で解散した。

**【コースタイム】**

JR有年駅09:55—10:03山王神社—10:11赤穂ふれあいの森ゲート—10:30山道合流点—10:52三重山—11:28駿行寺・薬師山荘13:59—14:18赤穂ふれあいの森ゲート—14:32JR有年駅

**【参加者】**

須磨岡輯 山内幸子 新井浩 新本政子 魚津清和 浦上芳啓 大塚宏暁 大塚和子 金井健二 金井良碩 清瀬祐司 戸島泰三郎 中島隆 前田正彰 松上美代子 宗實二郎 森沢義信 (会友)浅田博三 岐部明弘 蓮川博凡 (会員外)小林優子 新本孫宏 計22名



三重山山頂展望台 写真提供：魚津清和

**支部山行14-30 4000山グランプリ  
ゴンニャク山、野竹法師山、三日森山、  
狼虬山**

野村珠生

**1月10日(土)晴のち曇**

紀伊田辺駅に集合。新年の挨拶もそこそこにタクシーで皆根川出合まで入る。橋に掛かった鎖をくぐり、皆根川に沿ってつけられた林道をしばらく歩くと野竹法師山登山口の標識が現われ、左の小沢で取水する。

支尾根に付けられた階段状の登山口から疎林帯の道を急登する。高度を上げるにつれ数日前の残雪が目立つようになる。右手には明日登る三日森山がうかがえる。1時間余りで広い林道に出るが、そのまま西に500mほど進むと半分欠けた標識が現われる。再び左の登山道に入り、踏跡に注意しながらアップダウンを繰り返すと椿尾峠はすぐのところだ。

主稜線を直上しP801に登る。西側には熊野の山々が見える。嶽山への縦走路を分け緩やかな主稜線を辿りP854を過ぎるとゴンニャク山(952m)の山頂に達する。山頂は樹林に囲まれた平らな小広い台地だ。展望は望めないが、テント場には最適である。予定より1時間ほど早く着いたので、ここにテントを張り、野竹法師山をピストンすることにした。

ゴンニャク山からはシャクナゲが繁る吊り尾根を下り、いっきに登り返す。二等三角点のある野竹法師山(970m)の頂上は樹林に囲まれてはいるが、唯一北面からの展望が楽しめる。遠くに見えるのは笠塔峰か？ 大洞山か？

帰路、木々の間から夕日が美しく、西方に嶽山のシルエットが浮かんでいる。

**1月11日(日)晴**

4時半起床、満天の星。ピンと張った空気が気持ちいい。6時出発、ゴンニャク山の下りの稜線は雪も残っており、念のためアンザイレンして下る。嶽山の分岐を経て西側の林道までいっきに下り小休止。更に林道を進み四辻峠を経て三日森山(893m)に着いた。当初計画は三日森山着が11時、そこから中辺路へ真っ直ぐに下山する予定だったが、予定より早く進捗しているので、北方にある狼虬山(オオカミダワヤマ927m)まで縦走することにした。

三日森山から北方に伸びる稜線を進む。鹿除けネットが足に絡む。吹き溜まりの雪を踏みしめ、しばらくすると視界が開けたところに出る。前方左手には大規模な伐

採跡が広がっており、その後の植林も見られず豪雨の際の土石流が心配される。10時に狼虬山に着いた。ここには三等三角点が設置されている。P812、P821を過ぎて小尾根を下ると小広峠に続く林道に出るが、横切って小広王子口の集落に向かってさらに下る。この辺りの山に一面「榊」が植えられているのが印象深かった。野中一方杉バス停まで歩き紀伊田辺駅まで帰る。日曜日だというのに、バスはほとんど貸し切り状態だった。



狼虬山までの縦走を終えて 写真提供：重廣恒夫

### 【コースタイム】

10日 紀伊田辺駅10:00—皆根川出会11:27—登山口11:46—椿尾峠13:11—嶽山分岐13:35—ゴンニャク山15:13—野竹法師山16:11—17:03ゴンニャク山テント場  
11日 ゴンニャク山06:00—椿尾峠07:05—四辻峠07:48—三日森山08:36—伐採地跡09:46—狼虬山09:58—林道出会12:07—小広王子口バス停12:31—野中一方杉バス停13:23—紀伊田辺駅

### 【参加者】

重廣恒夫 松仲史朗 村田かおり 野村珠生 (会員外)  
立野里織 計5名

### 山行14-31 レスキュー講座 「けが人の搬送法を中心に」

山内幸子

日時：1月17日(土) 9:00~15:00

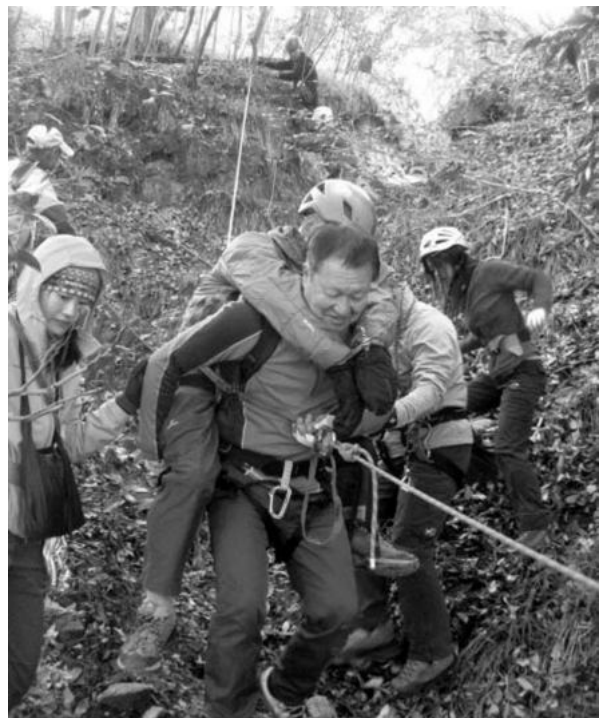
会場：蓬莱峡にて

講師：山本一夫 重廣恒夫

今回のレスキュー講座は若い人たちの参加があり活気にあふれていた。13日夜にルームで事前学習会を開催した。最近の救助活動の現況と救助法等について説明を受け、ロープの結び方も練習した。プーリンノット、オーバーハンドノット、クローブヒッチ、ムンターヒッチ、

ミュールノット、シートベント、マッシュャー…など、カタカナ用語と格闘しながら全員真剣なまなざしで取り組み、ルームは参加者の熱気であふれていた。ロープワークはその場で習熟できずに宿題で持って帰った。事故発生後、事故者(要救助者)をできる限り安全で安定した場所に移動させて救援隊に引き継いだり、ヘリコプターがピックアップできる場所まで移動させたりする必要がある場合に備え、手持ちの登山装備や、その場で手に入るあらゆる物品を活用した搬送法を習得しておくことが大事だと認識できた。

当日は蓬莱峡大屏風岩の前に集合し準備体操後、ただちに搬送法の実習に移った。最初に一人で要救助者を少しだけ移動させるドラッグ法を実習。要救助者の足をクロスさせ、脇から手を入れて組みそのまま引きずる方法。次に、援助できる者が複数いる場合のヒューマンチェーン法。スリングなどのロープがあれば、手を組む時お互いの手首に巻くと運びやすい。移動時は頭の方から動かすことや、前で担ぐ人は要救助者の頭を支え、後ろの人は足を支える必要がある。それから背負い法として、ザックや雨具を利用して要救助者を背負って運ぶ方法の実習。またストックとブルーシートを利用したシートタンカ、石ころをクローブヒッチでシートに固定してシートタンカを作成し、要救助者を運んだ。このシートタンカがわりと早く作成できて、要救助者にも負担がすくなく好評だった。



山道を背負って搬送 写真提供：山内幸子

休憩をはさんだあと、谷に落ちた人を引き上げる平地での模擬実習。カラビナやプーリを定滑車として要救助者を引き上げる方法、カラビナやプーリを動滑車として



使う方法、その二つを組み合わせた方法、補助ロープを使う方法などの説明を聞くが、だんだん理解の範囲を超えていく…

昼食時には雪が激しく舞い気温が急に下がり、震えながら午後の実習に入った。支部長におらさがってもらい午前中に習った各方法で引き揚げてみると、引き揚げに要する力が明らかに違うことや、新しく開発された器具(マイクロトラクションなど)の使用で引き上げの効率が格段に良くなることを実感した。

その後、急斜面で滑落した場合の救助手順を二人の講師が演じ、注意すべきことを確認した。ロープをハンモ

ック状に編んでロープタンカ(ザイルタンカ)を作成し、搬送を練習した。グループごとに個性あるタンカをつくり、実際に坂道を登り下りして乗り心地など点数をつけて評価した。山で人を搬送するのは簡単ではないと分かり、少なくとも事故を起こさないように気をつけなければと改めて肝に銘じました。

**【受講者】**

魚津清和 辻和雄 前田正彰 松仲史朗 山内幸子  
(会友)羽室靖 田中アキエ (会員外)依藤和宏 栗尾雅恵 藤井万貴子 立野沙織 若林朋世 タイのプーさん  
計15名



**「本山寺山森林づくりの会」作業報告**  
秦 康夫

**2014年10月2日(木)9:30~15:00**

物置周辺に残っているアカマツの枯損木や、繁茂するソヨゴやヒサカキなどを伐採し、林床を整備した。伐採は順調に進んだが、直径30cm程のアカマツが厄介な掛かり木になり、ロープやテコ、簡易チェーンブロックなど総動員してやっと処理することができた。今回の作業で物置周辺の整備は概ね終了。暗かった林間の見通しも大分良くなった。

**【参加者】**

阪下幸一 斧田一陽 薦田佳一 杉本佳英 宮本廣 秦康夫 武田壽夫 計7名

**2014年10月19日(日)9:30~15:50**

3班に分かれて、干害防備保安林の林床整備作業を実施した。先日、作業施行地内の谷筋で、親離れした小熊が目撃されたとのこと。要注意。

作業が予定より遅れているので、昼休み時間も短縮して精力的に作業を進めたが、急斜面で足場が悪く、なかなか思うようには行かない。目標としていた境界までは届かなかった。

帰路、落ち葉や土で埋まっている東海自然歩道の水切り溝の整備作業を数ヶ所行ってから集合地の物置設置場所へ戻った。

**【参加者】**

福井誠 倉谷邦雄 猪川誠 須本淳史 武田壽夫 石原順子 斧田一陽 小櫃徹夫 秦康夫 薦田佳一 計10名

**2014年11月6日(木)9:30~15:30**

物置周辺は大体整備できたが、南斜面の下部はまだ手を付けていない。今回は斜面を谷に向かって下りながら林床整備を進めることにした。この辺り一帯には、松の枯損木や枝掛かりして斜めになっている風倒木が多い。形の悪いヒサカキやソヨゴ類も片付けながら、午前、午後フル稼働で0.3haほどの整備ができた。

**【参加者】**

薦田佳一 宮本廣 中村賢三 石原順子 斧田一陽 武田壽夫 秦康夫 計7名

**2014年11月16日(日)9:30~16:00**

保安林の林床整備が予定より少し遅れていたが、今回は保安林の南斜面へ直行して、未整備の部分を片付け、これで44林班「い」、「は」の保安林約5haの整備はほぼ完了した。整備作業後、水源1から東海自然歩道に通じる里道の通行危険箇所修復に時間を取られ、作業終了が遅くなった。

**【参加者】**

薦田佳一 宮本廣 中村賢三 石原順子 倉谷邦雄 斧田一陽 武田壽夫 秦康夫 計8名

**2014年12月21日(日)9:30~13:00**

物置周辺の南斜面には枯損木、倒木、生木だが不要木等がまだ残っている。斜面が急で足場が悪く、作業に慎重を要するため効率は悪いが、それでも午前中で相当広範囲の整備が進み、あちこちに土留め材の集積が増えてきた。

本年の作業はこれで終了、午後は手製のテーブルを囲んで寄せ鍋の昼食会兼忘年会とし、1年を振り返って様々な反省材料や思い出など話し合い有意義なひとときを過ごしたが、とにかく寒かった(気温4℃)。

## 【参加者】

金井良碩 斧田一陽 板脇道雄 丸山喜代司 宮本廣  
 黒山泰弘 杉本佳英 須本淳史 薦田佳一 猪川誠 秦  
 康夫 計11名



物置小屋の前で(12/21) 写真提供：秦 康夫

## 「第18回」森の勉強会参加報告

須本淳史

2014年11月8日(土)・9日(日)の両日、関西／京都・滋賀／東海支部共催で行われた森の勉強会に参加した。

2日間のテーマは日本三大禿山のひとつと言われた「猿投山」の北西面に広がる東京大学赤津演習林での森と水の研究と「猿投山」の森林生態や自然環境等の学習、見学で、総勢30数名の研修会でした。

初日は、「猿投の森の哺乳動物たち(自然観察指導員 南川陸夫氏<東海支部>)」、「猿投の森の土壌と植生(森林インストラクター 川合壽之氏<東海支部>)」、「森と水の関係を解き明かす(東京大学生態水文学研究所准教授 蔵治光一郎氏)」の3先生方による講義でした。

前の2件は、東海支部の猿投の森における地道な現場踏査や観察記録に基づき猿投の森における動物生態や土壌のもつ側面を紹介するもので、森林のあるべき姿についてのお考えを拝聴できた。講師の専門性を感じさせる内容でした。3番目の蔵治氏の講演は2時間にも及んだが、時間をまったく感じさせないほどの熱演で圧巻であった。なぜ東大の演習林が愛知県にできたかの歴史から、活動を始めて蓄積した膨大なデータを通じて森林における水循環の収支、人為的な伐採や病虫害など自然攪乱に伴う森林の生態系が受ける影響など、なるほどと思わされた内容でした。講演の中でも一番考えさせられたのは、国内森林の樹齢分布図で、樹齢40~60年の樹木が突出して多いという事です。樹木としてはまだ若く、間伐など人間の手が適切に入れなければ森林生態系を維持できな

いものだそうです。日本の森林利用や整備に係る人手が少なくなっている現実では、深刻な結果を招くのではと課題を提示され、蔵治先生の森林生態に対する思いと執念を感じさせるものでした。

二日目は、東大赤津研究林に移動して研究林サポーターズクラブ案内人による生態水文系モニタリングの学習と見学を行い、データ蓄積の現場を知ることができました。研究林は花崗岩質の山肌がところどころ見られる我々のゲレンデの六甲山系と似た風景で、参加者全員「東京大学」と書かれたヘルメットをかぶり、しばし東大生気分になりご満悦の様子でした。

午後は「猿投の森づくりの会」の活動フィールドに移動して、会員案内のもとで散策させていただきました。朝から雨模様でしたが、しっとりとした雨が逆に木々の緑を美しく見せ、自然豊かな状態に復旧した「猿投の森」を満喫することができました。お昼は和田会長手ずからのお味噌汁をいただき歓待していただきました。

蔵治先生が啓発された日本の森林生態の課題に対して、国や地方行政に委ねるのだけではなく、個人としてできることは微力で限られているが、体力がある間は森林ボランティアとして取り組んでいきたいと考えさせられた有意義な二日間でした。

最後に、本山寺山森林づくりの会は念願の作業小屋が完成し、道具等のデポができるようになりました。定例作業に参加するメンバーの目の色も変わってきたように思います。この記事を読まれた皆様も森林ボランティアって大変そうだなと考えず、まずは体験参加で結構ですので、気楽に参加いただけるように、お待ちしております。

## 【参加者】

金井良碩 斧田一陽 阪下幸一 中谷絹子 松村文子  
 須本淳史 計6名

### 支部報 No.158 訂正

- ・ p.15 右上3行目 1947年… → 1942年…
  - ・ p.17~19 支部山行計画の行事番号は「14-25~14-36」と付していますが、正しくは「14-29~14-40」になります。山行報告においては正した番号によって掲載します。
- 以上、お詫びして訂正します。



## 自然保護全国集会報告

11月22日から26日にかけてアジア山岳連盟(UAAA)総会／創立20周年記念式典「広島山岳平和祭」として開催された。日本山岳協会、日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストの各団体も関連行事を行い、その一環として、11月22日(土)に2014年度自然保護全国集会是「人と山の関わり」をテーマとして広島工業大学広島校舎で開催された。参加者は、各支部の自然保護委員など82名です。

この集会の内容は「山」1月号に報告されていますので、それを参照していただければと思います。①森づくり活動による自然保護(本山寺山の森林づくり、東お多

福山草原復元)②森の勉強会を含む自然観察会③やまみち巡視保全④大台ヶ原の利用に関する協議会について活動状況を報告しました。人と山の関わりにおいて、やまみちや展望地の周辺の特別な生物多様性保全の必要性についても触れました。

当日の「交流懇親夕食会」、翌日の平和・安全・安心祈願の「広島山岳平和祭」と「平和記念資料館」での平和学習、国際シンポジウム「登山と山岳自然保護」にも参加しました。なお、次年度は自然保護委員会50周年を記念して東京での開催(7月11日～12日)が予定されています。(斧田一陽)

## スケッチ同好会例会の報告とご案内

### 【第3回報告】

日 時：11月17日(月)

場 所：檀原神宮

参加者：野村哲夫 金井良碩 久保和恵 浦上芳啓  
 薦田佳一 松仲史朗 小寺佳美 中谷絹子  
 佐野加代子 横山規江 岩崎しのぶ

計11名



音羽三山を望む 画：野村哲夫

第4回(1月)は雨天のため中止

### 【案内】第5回 開催のご案内

日 時：平成27年5月11日(月)10:15～15:00

集 合：JR新三田駅前 9:30

行 先：有馬富士公園

(歩行2.5km 高低差殆んどなし 約45分)

持ち物：画材(水彩を主とする)、カメラ、折りたたみ椅子、弁当、飲物、日除け帽子ほか

申込締切：平成27年5月7日(木)

申込先：久保和恵

e-mail：uncletorys05-kazu@nifty.com

電 話：079-565-0530

携帯電話：090-2598-9226

※ 少雨決行

※ 当日の詳細は参加者に別途通知します。

## 第25回記念藤木祭報告

宮川流太郎

今年の藤木祭は第25回記念(生誕127年)であり、多くの参加者(100名内ハイキング69名)がありました。当日は秋晴れの清々しい気候でハイキングをされた人々はさぞ気持ち良かったのではないのでしょうか。

藤木祭は、兵庫県山岳連盟森川副会長の進行で、兵庫

県山岳連盟中西会長、山中芦屋市長の挨拶に続き、今回は「瀬戸内海国立公園について」のお話しが環境省神戸自然保護官事務所の関貴史さんよりありました。

続いて藤木摩耶子さんによる、藤木九三短歌朗詠がありました。摩耶子さんは少し体調が良くないとおっしゃ

っていましたが、朗々と歌われていました。

式次第では次にコーラスの予定でしたが、この2～3年体調がすぐれずに欠席されていた藤木高嶺さんがお見えになっていると言うことで、一言挨拶が御座いました。藤木さんの人となりをお伺いする良いお話を聞かせていただきました。

アシヤユースコーラスの皆さんのコーラスに続き、参加者全員による合唱があり、最初はぎこちなかった歌声

も最後の方になると、皆さん50年ぐらい若返ったような歌声になっていました。

金井日本山岳会関西支部副支部長の閉会の言葉により今年の藤木祭はつつがなく終わりにになりました。

最後に今年は記念大会ということで、全員にバンダナを配布されました。色は黄色、山で目立つようにとのことでした。

## ■□■ 自己紹介

### 私の山登りの思い出

阪下幸一(会員番号:9012)

私が登山を始めたのは高校生の時、新任の生物の先生に連れられ登山の楽しさを知ってからで、卒業の時には北アルプスを目指すとの目的で月に1回山でトレーニングを始めた。3年生の夏休みに先生に連れられ白馬岳に行き、大きな雪渓、日本で一番高所の温泉、高山植物、山小屋や民宿の宿泊、何もかも初体験、登山の虜になった。その時の思い出は今も覚えている。

就職後も仲間と時々登山を行ったが東六甲で道に迷った時、やまゆき会の石上氏に出会い無事下山。歯科医の石上隆章氏の医院は私の会社の近くに有りそれが縁でS52年やまゆき会に入会した。当時は先鋭的な登山を行う会員も多く、毎年の様に大きな事故を起こしていた。それらが問題になり、そのグループは別の会を作り出た。指導者が少なくなり将来の為に大阪府山岳連盟に出向させられて修行、岩登りや冬山講習によく出かけた。この時期の府岳連には山スキーの優れた指導者、稲垣氏がおられて指導を受けて夢中になった。

S52年には山スキーの委員となりスキー登山を始めるようになった。会には同じ趣向の女性が居てスキーは私より先輩で上手、共によく山行をしていた、S51年には府岳連の山スキー大会で女子の部で優勝、その年に私と結婚したのが女房の悦子、S52年からは府岳連のチャレンジ登山大会が始まり、会としても関わり、現在まで毎年、やまゆき会は竹内峠を担当している。

S55年には私も山スキー大会(シニア部)で優勝、山岳連盟の全国登山体育大会にはS56年の21回目の久住山から最近まで毎年大会に参加して、全国に多くの岳友が出来た。59年まで府岳連の委員をしていたが会社でも中堅となり仕事も忙しくなった為、辞任。

S56年にQC活動(改善)で南極越冬隊長の西堀栄三郎氏が会社に来られ改善活動について南極での体験を話された折、登山が趣味で駆り出された私は西堀氏と話す機会があり、「君は山によく行くのか」と問われ「はい」と答えるとJACの入会を勧められ、それが縁で夫婦共に入会した。

但馬妙見山に行く為、地元の役場に問い合わせ、役場のスキー部の案内で妙見山にスキー登山。別れて奥神鍋迄ツアーを目指したが途中吹雪となり蘇武岳の手前で女房とビバーク。翌日は快晴で早々に神鍋に下山した。ブナを植える会が妙見山方面に植樹するのに役場を紹介したのが縁でブナを植える会に入会。但馬各地でブナの植樹に参加し、合わせて山の情報も集めスキーで登れる山々をめぐる歩き、多くの人達も案内もしました。

山スキー登山に夢中で車の免許も取り、主に故郷の但馬や白山周辺の山々、磐越、毛勝、東北、北海道などの山にも出かけた。その度毎に多くの方々にお世話になりました。

H10年にやまゆき会の石上会長の後を継ぎ4代目の会長に就任。12年間務めたが22年にやめ後輩に。一番の思い出は会の創設者の木藤誠一郎の33回忌に芦屋高座の滝の近くに記念碑を多くの人達の協力で作った事です。

S58年には関西支部の委員となりH9年には関西支部の自然保護の委員長に選ばれ大台、大峰の自然を守る会の田村義彦氏に背中を押されて主に大台ヶ原、大峰方面の自然保護に取り組んだ。西大台ヶ原の入山規制やオオヤマレンゲの保護などにも関わり、関西支部担当の自然保護全国大会も大台ヶ原で行いました。H18年に斧田氏と委員長を交代したがその後も自然保護活動に協力し本山寺の森の手入れに今も参加しています。中央分水嶺踏破も始まり努めて参加しました。特に四国分水嶺踏破は頑張り全コースを踏破することが出来、忘れられません。



昨年の11月末に長年支えてくれた女房の悦子が突然亡くなり、一時は気落ちしましたが多くの方々の励ましに何とか自立することが出来感謝しています。80才を越えましたが山を生きがいに活動できる間は頑張りたいと思っています。(2014/09/25受)

**中村久住(会員番号:6814)**

日本山岳会関西支部との関わりは、1970年ネパール国ダウラギリIV峰への登山に参加するにあたり隊長の野村哲也さんより日本山岳会に是非入会するようにお話がありました。日本の近代登山の開拓時代を引っ張ってこられた由緒ある山岳会にとってもとてもとて考えましたが、今後海外登山をする場合、必要であると論され入会させていただきます。

当時、今西さんが支部長でおられたと思います。お二人のご推薦で誇り高い日本山岳会会員になりました。以降は関西登高会が登山活動の中心でした。集会や総会の折々創設者の梶本徳次郎氏より「山の楽しみは、この尾根を回り込むとどんな山があるのか、どんな山が見られるのか、どこが登れるのか、わくわくした胸のとどろきである」と未知への本当の楽しみを教えられました。昨年関西支部の監事を任命され、支部活動を垣間見ると、その活動のダイナミックさに驚きました。本当の自然保護活動、新しいテーマを持った山行き、技術力アップの登山教室、著者と語る会、陽だまり山行や海外登山と幅広く深みのある支部運営です。

私は、現在大阪府山岳連盟の「遭難対策委員」と未組織登山者を集めた「パーソナル委員長」を担当しています。山の絶対テーマは、「遭難を起こさない」。何故比良山で死亡事故が起こるのか、読図、ルートファインディング、歩き方(足の置き方)、天候、体力、現場での判断等、実際事故者に出来ることなら原因・遠因を聞き、同じ事故が起きないように登山者に伝えたいのですが、中々うまく行きません。パーソナルメンバーには「楽しく」「安全に」「チャレンジする登山へのサポート」を行いますと伝えていきます。登山愛好者が増えている中、堅苦しいことは苦手なようです。落ち着きましたら支部の山行にも参加させていただきたいと考えています。その折りはよろしく願いいたします。(2014/05/28受)

**平成27年度 関西支部総会のご案内**

**日 時** 平成 27 年 4 月 22 日(水)  
午後 6 時 30 分  
**場 所** ホテルグリーンプラザ大阪  
ANNEX 5階  
**議 事** ①平成 26 年度活動報告、会計報告  
②平成 27 年度活動計画、予算  
③その他  
**懇親会** 午後 7 時 30 分より 会費 5,000 円

\* 4 月 15 日(水)までに同封のハガキにて出欠をご返事ください。





Room日録 2014年・2015年

11月 5日(水) 支部報157号発送 水曜会	10日(水) 支部報158号発送	水曜会
6日(木) 80周年記念海外登山PJ	17日(水) 八十周年記念事業実行 委員会	9日(金) 記念事業作業
12日(水) 支部委員会	24日(水) 支部委員会	10日(土) 記念事業作業
14日(金) 著者と語る会準備作業	1月 3日(土) 記念事業作業	13日(水) レスキュー講座事前学習会
20日(木) 著者と語る会后片付け	5日(月) 記念事業作業	15日(木) 八十年史編集作業 近畿分水嶺踏査報告書編集 会議
12月 1日(月) 支部報原稿打ち合わせ	6日(火) 記念事業作業	80周年記念海外登山PJ
3日(月) 水曜会	7日(水) 八十周年記念事業案内 発送	21日(水) 支部委員会
	八十周年史編集会議	27日(水) 募金委員会

受贈一覧

(2014.11.1~2015.1.31受理分)

山岳大阪 No.203 大阪府山岳連盟	日本山岳会支部報	・[京都・滋賀] 支部だより No.117
登山月報 第548, 549, 550号 日本山岳協会	・秋田山岳 No.95	・JAC Hiroshima 第54号
日本山岳会「高尾の森」通信 vol.56	・群馬支部報 創刊号	・JAC北九だより No.71
兵庫山岳 第570,571号 兵庫県山岳連盟	・千葉支部だより 第29号	・JAC福岡支部Newsletter 2014年12月
	・埼玉支部報 第13号	・東九州支部報 第67, 68号
	・越後支部報 第12号	・熊本支部報 No.33
	・東海支部報 No.140	・宮崎支部報 第51号

## 2015年4月～6月 支部山行計画

※申込先は、後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

## 15-1 桜を愛でながら白亜の大天守白鷺城を見よう！

「男山59m」

日 時：4月9日(木)

集 合：姫路駅中央改札口 午前10時集合

持ち物：弁当、飲み物等

地 図：2.5万分の1「姫路」

備 考：大改修を終えた白鷺城を400m隔てた男山から眺める山行です 一般観光客が足を運ばない男山には姫路市の配水池があり、アマチュアカメラマンがご来光と姫路城をカメラに収めるポイントでもある 駅から徒歩約1時間

申込み：3月31日迄 山内幸子

## 15-2 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる22

「紀泉アルプス 泉南飯盛山」

日 時：4月16日(木)

コース：南海みさき公園駅—堤灯講山—泉南飯盛山—孝子札立分岐—藤戸山—上孝子—南海孝子駅

地 図：2.5万分の1「淡輪」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります 歩行距離約9km 歩行時間約4時間40分

申込み：4月7日迄 久保和恵

## 15-3 4000山グランプリ

「野伏ヶ岳1674m・芦倉山1717m」

日 時：4月18日(土)・19日(日)

コース：美濃白鳥駅—石徹白—野伏ヶ岳—芦倉山—石徹白—美濃白鳥駅

地 図：2.5万分の1「願教寺山」「二ノ峰」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください  
難易度の高い山 テント山行 一般参加可  
山岳保険加入が必須  
80周年記念海外登山のトレーニング山行

申込み：4月10日迄 重廣恒夫

## 15-4 関西支部県境縦走28

日 時：4月25日(土)・26日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります  
HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：4月15日迄 山内幸子

## 15-5 4000山グランプリ

「赤堂山1059mから多子津山1311m」

日 時：5月9日(土)・10日(日)

コース：金沢駅=刀利ダム—赤堂山—月ヶ原山—多子津山—刀利ダム=金沢駅

地 図：2.5万分の1「湯桶」「西赤尾」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください  
難易度の高い山 テント山行 一般参加可  
山岳保険加入が必須  
80周年記念海外登山のトレーニング山行

申込み：4月30日迄 重廣恒夫

## 15-6 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる23

「湖西 阿弥陀山」

日 時：5月14日(木)

コース：JR近江高島駅(バス)上寺—田中城天守閣跡—太山寺城跡—阿弥陀山—八田川沿い林道出合—横山バス停(バス)JR近江高島駅 or JR安曇川駅

地 図：2.5万分の1「北小松」「饗庭野」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります 歩行距離約11km 歩行時間約4時間30分

申込み：5月7日迄 久保和恵

## 15-7 関西支部県境縦走29

日 時：5月16日(土)・17日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります  
HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します。

申込み：5月6日迄 山内幸子

## 15-8 関西支部80周年記念山行

「六甲山」

日 時：5月31日(日) 詳しくは関西支部創立80周年記念式典案内を参照

参加申込みは、送付している葉書で

参加費用3,000円(弁当、入浴料、バス代等)

## 15-9 4000山グランプリ

「四塚山2530m・六万山1260m」

日 時：6月6日(土)・7日(日)

コース：小松駅=市ノ瀬—六万山—室堂—大汝峰—四塚山—別当出合

地 図：2.5万分の1「加賀市ノ瀬」「白山」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください  
難易度の高い山 テント山行 一般参加可

山岳保険加入が必須 80周年記念海外登山の  
トレーニング山行

申込み：5月30日迄 重廣恒夫

**15-10 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる24**

「北摂西部 大岩ヶ岳・鎗射山」

日 時：6月11日(木)

コース：JR道場駅—千刈貯水場—登山口—大岩ヶ岳—  
登山口—千刈ダム—光明寺—展望台—鎗射  
寺—鎗射山—JR道場駅

地 図：2.5万分の1「武田尾」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く  
山行でコースを変更する場合があります  
歩行距離約12km 歩行時間約5時間

申込み：6月4日迄 久保和恵

**15-11 ベニバナヤマシャクヤク鑑賞**

「大峰山系 観音峰」

日 時：6月20日(土)

集 合：近鉄吉野線下市口駅改札前 9時15分集合  
9時20分発のバスに乗車

コース：観音峰バス停—観音峰休憩所—展望台—1285  
m峰—観音峰山頂—三ツ塚—法力峠—母公堂  
—洞川温泉センターバス停

地 図：2.5万分の1「洞川」「弥山」「南日裏」

備 考：標高差約600m 歩行距離約9km 歩行時間  
約4時間30分(休憩含まず) 雨天決行

申込み：6月13日迄 久保和恵

**15-12 関西支部県境縦走30**

日 時：6月27日(土)・28日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります  
HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：6月17日迄 山内幸子

**申込み先一覧**

久保和恵 FAX：079-565-0530

e-mail：uncletorys05-kazu@nifty.com

重廣恒夫 FAX：078-855-6667

e-mail：tsuneo.shigehiro@asics.com

山内幸子 e-mail：sacchyama2f0710@yk2.so-net.ne.jp

**ステップアップ登山教室 一般対象 募集中**

**1stステップ**

初級『地図とコンパスを持って北摂の山を歩く』

4月14日(火) 安全・快適トレッキング(座学)

5月12日(火) 双子山～石楠花山～水晶山

6月9日(火) 古寺山～仙人窟跡

7月7日(火) 鬼ヶ島～湯槽谷山～落葉山

中級『沢歩き』

4月14日(火) 安全・快適登山術(座学)

5月21日(木) 摩耶東谷～摩耶山

6月18日(木) 船坂谷～大平山～座頭谷

7月16日(木) 赤子谷～岩原山

上級『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』

4月14日(火) 安全・快適登山術・岩登りの基礎知  
識(座学)

5月26日(火) 蓬莱峡周辺

6月16日(火) 百丈岩周辺

7月28日(火) 不動岩周辺

**「蔵書を読む会」のご案内**

6月15日(月)13:00～17:00予定

於：支部ルーム

**2015年 4月～6月 自然保護行事**

**1 東お多福山ススキ草原復元活動**

・4月14日(火) 全面刈り

予備日：4月15日(水)

・5月20日(水) 春の植生調査と管理作業

予備日：5月21日(木)

※集合：阪急芦屋川駅 8時50分

**2 日本山岳会関西支部本山寺山の森(本山寺山森林づ  
くりの会活動)**

・4月2日(木) 保安林内整備等

・4月19日(日) 保安林内整備等

・5月7日(木) 間伐作業 自然観察会

・5月17日(日) 間伐作業

・6月4日(木) 保安林内整備等

・6月21日(日) 保安林内整備等

※集合：JR高槻駅北口アルプラザ前 8時50分

**問い合わせ・申込み先**

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556/090-4037-4542

※締め切り：開催日の一週間前まで



# ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 (税抜)  
TEL 075-723-0111 / FAX 075-723-0095

**ロープレスキュー技術**  
堤 信夫 著  
2000円  
登山家や救助・防災関係者必携。現場で使えるロープテクニクの手順・方法を、図解イラストでわかりやすく解説。

**奈良名山案内** 世界遺産の峰めぐり  
エスカルゴ山の会編  
2000円  
計172山・92コース 登山口の最寄駅から山頂を経て帰途の最寄駅まで、美しい写真と地図をそえて、コース全体をアドバイス。

**一等三角点全国ガイド**  
一帯二肉熟研研究会 編著  
(正)2000円・(続)1800円  
千点余の全一等三角点(正編は500m以上、続編は500m未満)の基本データと登山道を案内。高山以外にも、無名峰、里山、離島、ヤブの中から民家の庭先まで、その所在地は多士済々。

## 連続 一等三角点全国ガイド

登山案内 ◎会員による実地調査 ついに完結!!



**ブーランの小さな診療所**  
坂本龍太 著  
2000円  
ブーランに憧れた一人の医師が、様々な困難を乗り越え、多くの人々の協力のもと始めた、地域に根ざす高齢者健診プロジェクトと心温まる交流の記録。  
この本には、憧れ・きずな・情熱が詰まっている  
……京都大学東南アジア研究所教授 松林公蔵

## 好評発売中! ◎そこには人びとのぬくもりがあったー

ブーランの小さな診療所

「エア・カナダ ルージュ」で行く! アメリカ西部の国立公園

中世の趣が漂う山村を訪ね、迫力ある雪山の展望を楽しむ

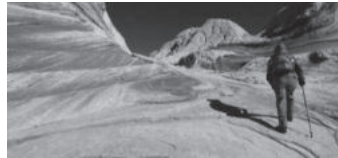
### 【関空発着 特別企画】 グランドサークル満喫ハイキング 8日間

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
5/25(月)～6/1(月)	¥448,000

関空発着でアメリカ西部のグランドサークルを巡ります。地球上とは思えない風景が広がる「ホワイト・ポケット」や、グランドキャニオンでも観光地化が進んでいない「ノースリム」でのハイキングなど、こだわりの内容です。



▲モニュメント・バレー



▲ホワイト・ポケット

### コーカサス山脈の核心部 世界遺産の上スワネチ地方ハイキング 9日間

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
6/12(金)～6/20(土)	¥388,000
6/26(金)～7/4(土)	¥388,000
7/3(金)～7/11(土)	¥388,000
7/21(火)～7/29(水)	¥398,000

グルジア最高峰シハラや怪峰ウシュバなどの名峰を眺めながら、花咲く高原をハイキング。コーカサス山脈の核心部、世界遺産・上スワネチ地方の魅力が満載です。



▲ウシュグリ村から眺めるグルジア最高峰シハラ

【山好きな若者・社員募集】◎履歴書・山行歴・職歴(写真添付)を送付してください。

- [業務内容] 国内・海外登山ツアーに関する業務 (営業およびツアーリーダー業務)
- [募集人数] 1名 [勤務地] 大阪 [応募資格] 年齢28歳位まで [給与] 当社規定による
- [勤務時間] 9:30～18:30 [休日] 土曜、日曜、祝日、夏季・年末年始
- [休暇] 年次有給休暇、産休、育児等 [福利厚生] 各種社会保険

観光庁長官登録旅行業第490号/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 © 東JTD保証会  
**アルパイン ツアー サービス 株式会社**  
大阪支店 / 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2階

**06-6444-3033** FAX 06-6444-3032  
[ホームページ] <http://www.alpine-tour.com> [e-mail] [osaka@alpine-tour.com](mailto:osaka@alpine-tour.com)

#### 〈編集後記〉

☆関西支部の80周年関連のさまざまなことが本格的に動き出しています。長らく山行に参加できていないので顔を合わせる機会のない諸先輩方も多く、支部報の編集段階で皆さんの実績を知ること多々あって、ただただ恐れ入っています。なかなか私事の落ち着かない毎日ですが、参加できるものは参加せねばなあ、と意識を新たにしています。(加藤)

発行日 2015(平成27)年3月10日  
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階 304号室  
公益社団法人 日本山岳会関西支部  
e-mail: [kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp](mailto:kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp)  
郵便振替口座 00930-6-55950  
発行者 重廣恒夫  
編集 加藤芳樹 野口恒雄 水谷 透  
制作 株式会社 双陽社  
大阪市北区堂島2-2-28